

本書は、内地及外地に於ける才一編軍隊の終戦前と終戦時に於ける態勢並真相と終戦後の動向並処理に関する概観である。

元々、方面別毎の終戦記録を整理する為めの基礎的資料たらしめる目的を以て、素案を整理し、爾後、逐次、加除修正を重ね、概成を期したものである。

素材は、状況報告其他当時の記録・陸軍省（才一復員省）の資料課の整理した情報資料等であるが、之等は概して順る貧弱で、一応の史実とする為めには所謂資料保有者から色々と聞かなければならぬことが甚だ多いのが実状である。

前述の如く、本書の内容については、逐次、補正し、且つ、拡張附録しつつ、概成することとしたものであり、昭和三十三年度の当初に於ては、文部省連軍・南方軍以外は、何れも概成中途で、従つて、概

類の度は、自ら著述家々となつて、東軍方面（才八方面軍・才十七軍）、中那太平洋（才三十一軍）、パラオ（才十四師団）、小笠原（才百九師団）等は、作業の関係上、誠に粗薄とならざるを得なかつた。

が、之等は、万承知の上で、中間整理の意味を以て、昭和三十三年度初頭に於ける資料を、取敢えず整理し、他日に於ける研究の材料たらしめる意味を以て、纏めることとしたのである。

支那派遣軍並南方面軍については、一応その史実の整理を了つたが、中には概観を再録すると共に、その足らざる処を部分的に補備する如く努めた。

0006